評価のためのミニテスト

実務研修

⑨地域包括ケアシステム及び社会資源

項目	問題（〇×で解答）	解答欄	正答	評価（正答数）
①地域包括ケアシステムの構築に向けた取組が求められる背景について説明できる。	2020年の日本の高齢化率は29．1%であり、日本は超高齢社会を迎えている状況である。			
	世帯主が65歳以上の単身世帯及び夫婦のみ世帯の割合は、全国的に減少傾向にある。			
	要介護認定率は年齢の上昇とともに増加し、85歳を超えると4人に1人が要介護認定を受けている。			
②地域包括ケアシステムを構築する意義と目的について説明できる。	高齢者の尊厳の保持は、高齢者自らの意思に基づいた生活が継続的に出来るように、自己決定を尊重することが求められる。			
	ニーズの充足のためには介護保険制度のサービスのみならず、その他のフォーマルサービスやインフォーマルサービスなど多様な社会資源を本人が活用できるようにケアマネジメントを展開する。			
	地域包括ケアシステムを支える4つの視点は、「自助」「互助」「共助」「公助」である。			
③利用者の地域の社会資源の調査を実施できる。	フォーマル、インフォーマルサービス問わず、地域包括ケアシステムを構成すべき関係機関の位置づけ、機能、役割について明確にしていくことが重要な役割である。			
	社会資源の開発や、それらを取り巻く地域社会との関わり方は行政が示した指針通りに進めていかなければならない。			
	インフォーマルサービスを利用する場合、利用者の同意をいただければ、その内容をケアプランに位置づけることもできる。			
④地域包括ケアシステムの構築に向けて介護支援専門員が果たすべき役割について説明できる。	介護支援専門員が支援を困難と感じているケースなどは、地域ケア会議で支援方法などを検討することができる。			
	地域ケア会議は、市町村や地域包括支援センターが主催し、行政職員をはじめ、専門職、地域の関係者等から構成され、会議の目的や必要に応じて出席者を調整することが必要である。			
	主任介護支援専門員は、地域包括支援センターにだけ配置されており、地域ケア会議の進行することが重要な役割である。			
⑤地域の現状、課題、目指す方向性、社会資源の整備状況等を述べることができる。	地域の高齢者を取り巻く情報の把握と共有のため、介護支援専門員はそれぞれ担当している利用者の検証を行う事が大切である。			
	地域にある多くの社会資源を必要時適切に活用するためには、これら資源を担う場所や人材、支援内容を知ることが求められる。			
	インフォーマルサービスはこれからますます増えていくため、情報の集約は地域包括支援センターだけで行う。			
科目評価 （受講後評価）		正答数：15～12 → 科目評価：3 正答数：11～ 8 → 科目評価：2 正答数： 7～ 4 → 科目評価：1 正答数： 3～ 0 → 科目評価：0		（正答数計）